

第44回2025トリミング競技大会



全国のトリマー283名が挑んだ「第44回2025トリミング競技大会」がロイヤルカナン・カップ2025、JKCサクラ・アニジュアル・ショー2025の会場にて、2日間にわたり開催されました。



今年は昨年より出場者がやや多く、いつも以上に熱気にあふれた会場となりました。出場者全員、ベストパフォーマンスを尽くすべく、集中して競技に臨みました。



理事長賞受賞者には、特別協賛：ロイヤルカナン ジャパン合同会社、協賛：株式会社アイレックス・株式会社PLUSH PUPPY・有限会社ファースト インターナショナル アソシエイト・株式会社 アンドーより、副賞が贈られました。

「第44回2025トリミング競技大会」が3月28日（金）・3月29日（土）の2日間にわたって開催されました。

初日は全国ブロック予選を勝ち抜いてきた158名のトリマーによる「ブロックの部」、2日目は公認トリマー・養成機関代表125名による「養成機関の部」の競技が行われました。

出場者には、自ら用意した2カ月以上カットをしていないモデル犬を2時間以内で仕上げる高度な技術力が要求されます。多くの観衆が見守る中、緊迫感に包まれつつ、皆、精一杯持てる力を発揮しました。

養成機関の部

理事長賞

ブロックの部



鳴海 茜（スカイ総合ペット専門学校）

総評 審査員長：石廣鑑子

E組からA組まで127名緊張感の中、皆さん普段の努力を2時間の競技時間の間フルに発揮された事と思います。

この本部トリミング競技大会という大きな大会に出場されたという事は大切な経験になった事でしょう。

入賞された方おめでとうございます。残念ながら入賞されなかった方、又のリベンジを期待します。皆さんお疲れ様でした。

受賞コメント

今回、このような大きな舞台で、シュナウザーという犬種で理事長賞に選んでいただけたこととても嬉しく思っています。学校の先生や切磋琢磨してきた戦友たち、担当犬のシュナウザー仲間たち、支えてくれた家族、私にかかわる全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。

目標の日に合わせて何カ月も前からのコート管理や仕上がりイメージしながら、ボディのメリハリを意識して準備を丁寧してきたので、本番は焦ることなく、モデル犬の長所を活かし、自分らしいトリミングができるように取り組みました。

今後はシュナウザーだけでなく他の犬種にも挑戦し、幅広く活躍できるトリマーを目指して頑張っていきたいです。



高橋邦明（埼玉ブロック）

総評 審査員長：深町政彦

今回の本部トリミング競技大会では、過去最高の参加人数でありました。最高のスキルを発揮した最優秀技術賞の中からの理事長賞選出は甲乙つけがたくとても大変でした。その中よりモデル犬に負担のかからない作業内容やシザーワークはとても良く、モデル犬のバランスを考えたカッティング、スタンダードを十分理解したグルーミング技術を発揮した、A組のケリー・ブルー・テリアを選出いたしました。

今後、今回出場した全ての皆様の更なる技術向上を望みます。

受賞コメント

今回の競技会からケリー・ブルー・テリアに犬種を変えての挑戦でした。受賞が発表された瞬間はまさに晴天の霹靂でしたが、私を指導し導いてくれた師、支えてくれた仲間達、そして家族に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

ケリー・ブルー・テリアに最も重要であると言っても過言ではないマーセル・ウェーブを時間内にいかに表現出来るかを心掛けて作業しました。そして、常にケリー・ブルー・テリアのアウトラインのイメージを自身から引き離さない様に工夫し練習してきました。

今後も、お世話になっている私の尊敬するアメリカのケリー・ブルー・テリアのブリーダーの元に渡りし経験と見識を高め、少しでも日本のケリー・ブルー・テリアの発展に貢献出来たら幸いです。



優秀養成機関賞



SJD ドッググルーミングスクール



つくば国際ペット専門学校

養成機関の部

A組



| 短評 | 審査員・石廣鑑子

さすがにA組とあって道具の扱いはもちろんの事、作業内容もスムーズで入賞を決める際、特に技術賞の4名の選出にかなり悩みました。最優秀技術賞のミニチュア・シュナウザーの方は最初からいい作業で犬の扱いもやさしく、ナイフの使い方も適格でした。バランスの良い美しい仕上がりでした。
理事長賞の受賞も重ねておめでとうございます。

最優秀技術賞：鳴海 茜(スカイ総合ペット専門学校)
優秀技術賞：中村優太(九州サンシャインドッググルーミングスクール)
吉良香鈴(大分ドッググルーミング専門学校)
技術賞：伊藤智虹(愛犬美容看護専門学校)
加藤瑠花(スカイ総合ペット専門学校)
関谷寧音(大分ドッググルーミング専門学校)
落合 栞(SJDドッググルーミングスクール)

B-1組



| 短評 | 審査員・岩堀理恵

24名の出場者でした。B組でしたので、ビフォーアフターを重視して審査をさせて頂きました。
サイドビューだけではなく、クラウンやネックライン、ウエスト等のカーブが美しく作れている方を入賞と致しました。

最優秀技術賞：大友愛希(つくば国際ペット専門学校)
優秀技術賞：濱野こゆき(ナンバペット美容学院)
石田友香(SJDドッググルーミングスクール)
技術賞：佐伯里菜(ナンバペット美容学院)
古屋華子(SJDドッググルーミングスクール)
田島由紀乃(つくば国際ペット専門学校)
高橋世奈(静岡グルーミングスクール)
遠藤晴希(つくば国際ペット専門学校)
児玉温紀(九州サンシャインドッググルーミングスクール)

B-2組



| 短評 | 審査員・Chang Hyun Lee

最優秀技術賞の方は密度のあるコートのプロローが非常によく、コーミングもスムーズで完成度が高かった。途中でミスもあったが強い精神で動揺せず最後まで丁寧に仕上げた。
ただ高めで太い喉の表現が残念であった。このクラスは皆ドライング、コーミングが非常に良かったが、作業途中に犬から少し離れて全体のバランスを確認する余裕がなく、残念に感じた。

最優秀技術賞：小堀美空(つくば国際ペット専門学校)
優秀技術賞：宮下未羽(ナンバペット美容学院)
村上麗虹夢(大分ドッググルーミング専門学校)
技術賞：長尾杏実(K-9グルーミングスクール)
小橋川華蓮(つくば国際ペット専門学校)
大塚悠翔(SJDドッググルーミングスクール)
高橋南海(千葉グルーミングスクール)
清田優作(ロイヤルグルーミング学院)
安久井佐知子(アートグルーミングスクール)

養成機関の部

C-1組



短評 | 審査員・神宮和晃

出場者の皆さん、大変お疲れ様でした。大舞台の緊張の中、真剣に競技に臨む姿には感銘を受けました。競技者それぞれに長所がありましたが、フローやクリッピングも含めた基本作業の質を向上できるよう、日頃から心掛けていただくと、本番での仕事の内容ももっと良いものになっていくと思います。

入賞された方もされなかった方も、基本作業を大切にしながら今後も更に上を目指していただきたいと思います。

最優秀技術賞：中村あゆむ (SJDドッググルーミングスクール)

優秀技術賞：笠井麻捺人 (四国サンシャインドッググルーミングスクール)
齋藤萌衣 (東京愛犬専門学校)

技術賞：山本愛華 (九州サンシャインドッググルーミングスクール)
北村智菜実 (ナンバペット美容学院)
安田里奈 (東北愛犬専門学校)
立川きらり (ロイヤルグルーミング学院)

C-2組



短評 | 審査員・光勢忠太郎

このクラスは入学後、1年とまだ日が浅く、馴れていない方が多いと思いますが、シザーの使い方がチップングしか出来ない方がほとんどの様に見受けられました。

その中で最優秀技術賞の方はモデル犬に合ったラムクリップを軽快に仕上げられていました。優秀技術賞の方もすばらしい技術をお持ちでした。

最優秀技術賞：菊池愛結 (愛犬美容看護専門学校)

優秀技術賞：松本彩花 (アートグルーミングスクール)
野崎楓佳 (大分ドッググルーミング専門学校)

技術賞：岡本都紅紫 (SJDドッググルーミングスクール)
須田妃那乃 (国際ドッグビューティースクール)
林 晴菜 (スカイ総合ペット専門学校)
高橋美妃 (千葉グルーミングスクール)

E組



短評 | 審査員・島本彩恵

このE組はJKC協力機関クラスです。指定機関・研修機関と違って2年間でトリマーC級受験となります。やはり1年多くのトリミングキャリアがあるので、基本的なスキルとしては皆さんとても安定していました。

出場校も20校と多く、トリミング技法はスタートして直ぐアウトラインを作っていく方、チップングで少しずつ作る方と多種多様でした。作品としての完成度、アーティスティックなラストラックとして、ここ最近新しく認可されたテリアクリップを施したミディアム・ブードルが特に目を引きました。サイズのトイ・ブードルの体表面積の3～5倍はあり、全ての作業も多くハイルスクハイリターンでしたが、コンペティションの作品としてはとてもアピール力が高かったです。



最優秀技術賞：内田結月 (アジア動物専門学校)

優秀技術賞：山内美捺子 (専門学校穴吹動物看護カレッジ)
松田小鈴 (国際ペット専門学校 福井校)

技術賞：山本乃愛 (宇都宮愛犬美容学園)
三村美咲 (専門学校ビジョナリーアーツ)
大槻さくら (日本ペット&アニマル専門学校)
舩本夢空 (日本ペット&アニマル専門学校)
嘉手川美花 (福岡ECO動物海洋専門学校)
海保菜緒 (専門学校ちば愛犬動物フラワー学園)
藤木菜々子 (専門学校福岡ビジョナリーアーツ)
岩井琴美 (専門学校ちば愛犬動物フラワー学園)

ブロックの部 (A組～D組)

A組



短評 | 審査員・深町政彦

技術力のあるブロックA組の出場者の方々はとてもレベルが高く、楽しく審査をさせていただきました。

最優秀技術賞の方ですが、モデル犬、競技内容共にとても良く、厚く波打つ被毛はとても美しく管理されていました。程よく長い顎は力強く表現し、バックラインに繋がるラインもなだらかでした。前駆と後駆のバランス、体高と体長のバラン

スは良く、よく傾斜した長い肩、よく張った肋骨を表現し、ケリー・ブルー・テリアの犬種標準を十分に理解したグルーミングでありました。

また、年々増加するビション・フリーゼの出場者の方々の技術力の進歩は凄いものがあるように感じました。

最優秀技術賞：高橋邦明(埼玉ブロック)
優秀技術賞：伊牟田愛夢(大阪ブロック)
飯島涼太(北関東ブロック)
技術賞：大崎恵美(神奈川ブロック)
芦田真歩(東京ブロック)

石樽麻紀(中部ブロック)
松浦まり子(北関東ブロック)
川瀬志穂(中部ブロック)
木下育代(近畿ブロック)

野間美咲(四国ブロック)
清野和弥(東北ブロック)
内田英和(北関東ブロック)
松野優美(神奈川ブロック)

齊藤朱鯉(北海道ブロック)
福岡早也佳(近畿ブロック)
中村健太(東北ブロック)
山崎清美(北関東ブロック)

B組



短評 | 審査員・田中美恵子

競技者36名と、比較的多数参加でのクラスでしたが、B組にいたるまでの技術習得時間を経て来られた方々なので、基本的な作業に於いては期待を裏切らない進行が見られました。

そして仕上がりでは、ショークリップを望むクラスとしてショーイングに及んでい

る事を原点とし、それぞれのモデル犬を深く理解した上でラストルックがいかに表現されたか理想のスタイルへの完成度がより高くイメージされた方々を順次選抜いたしました。

最優秀技術賞：千葉春里(埼玉ブロック)
優秀技術賞：高野礼捺(北関東ブロック)
馬場晶子(九州ブロック)

技術賞：京塚豊子(神奈川ブロック)
渡辺 仁(北陸甲信越ブロック)
氏原七菜(四国ブロック)
松本壮史(九州ブロック)

高橋真維(神奈川ブロック)
渡邊由佳(中部ブロック)
中村風香(東北ブロック)
赤井香奈(北海道ブロック)

佐野はるか(千葉ブロック)
井上恵莉菜(中国ブロック)
岡本優穂(神奈川ブロック)

C組



短評 | 審査員・川田恵子

C組32名(欠場者3名)。

C級ライセンス保持者ではあるが、スタンダードの理解度、カットスタイルに対する理解度にかかなりの差が見受けられた。全体的に道具の扱い、犬の扱いは安定していたものの、立ち位置、犬との距離感など適切でない競技者が気になった。

今後には、常に犬の全体像を視野に入れながらカットをするという事を意識し、より一層のレベルアップに繋げて貰える事を希望します。

最優秀技術賞：齊藤李音(九州ブロック)
優秀技術賞：根本海音(千葉ブロック)
志水琴菜(九州ブロック)

技術賞：鈴木 雛(北関東ブロック)
木間塚 葵(北関東ブロック)
田中美香子(近畿ブロック)

北畠有美(北海道ブロック)
関山綾乃(中国ブロック)
石田結華(中国ブロック)

山本明美(北関東ブロック)
村田恵梨奈(大阪ブロック)

D組



短評 | 審査員・萩野まり子

23頭のエントリー(トイ・プードル18・ミニチュア・プードル1/ビション・フリーゼ4)。

最優秀技術賞の方はモデル犬の被毛の状態、犬の扱い、カット位置、ラストルックも大変良く仕上がっていました。

優秀技術賞の方2人共に最終的に仕上がり良かった。技術賞の内にも頭部を含め、前駆をもう少しカットすれば上位に入れるのと思います。

モデル犬の選択も大切だと思います。実務経験もこれからです、頑張ってください。

最優秀技術賞：森 千奈実(中部ブロック)
優秀技術賞：吉岡千裕(大阪ブロック)
高尾桃香(近畿ブロック)

技術賞：谷畑雪乃(近畿ブロック)
中野妃乃(中部ブロック)

高橋伸枝(大阪ブロック)
中川富士美(東京ブロック)

松原明日花(北海道ブロック)
柴田美奈(東北ブロック)

ブロックの部（スパニエル・プラッキング犬種A組～D組）

スパニエル・プラッキング犬種 A組



最優秀技術賞：相馬一輝（北海道ブロック）
優秀技術賞：村田浩樹（大阪ブロック）
有村 健（東京ブロック）
技術賞：桜井俊孝（埼玉ブロック）
星 洋輔（東京ブロック）
神宮有里子（北関東ブロック）
渡邊敏壮（中部ブロック）

｜ 短評 ｜ 審査員・Chang Hyun Lee

最優秀技術賞のアメリカン・コッカー・スパニエルの方は、十分に長いコートを手2時間でよく完成させた。道具の扱いも犬のコントロールも適切でした。尾のポイント、アンダー・ラインも良く処理されていたが頭部の作成には少し工夫

が必要と感じました。ミニチュア・シュナウザーはナイフの使い方も良く好感を持てる方が多くいたが、シザーリング部分、特にチェストや前肢の作成については個々の犬に適した形状になるよう工夫が必要と感じた。

スパニエル・プラッキング犬種 B組



最優秀技術賞：バーナードオン（北関東ブロック）
優秀技術賞：佐藤 恵（北海道ブロック）
津田奈緒子（大阪ブロック）
技術賞：長谷野 圭（九州ブロック）

｜ 短評 ｜ 審査員・Chang Hyun Lee

この組は全体的にレベルが高いと感じました。審査の基準としては、ブリード・スタンダードに近づける工夫や、犬種のバランス、個々の完成度によって席次を決

定しました。最優秀技術賞にはNo.151のミニチュア・シュナウザーを選びました。課題としては各作業に於いてあと少しの丁寧さが欲しいと感じた。

スパニエル・プラッキング犬種 C組



最優秀技術賞：坂東正吏（中部ブロック）
優秀技術賞：良知清乃（中部ブロック）
安藤孝枝（東京ブロック）
技術賞：関澤陽子（近畿ブロック）

｜ 短評 ｜ 審査員・Chang Hyun Lee

最優秀技術賞のレークランド・テリアは完成度に於いては少し物足りなさを感じるが、技術的なテクニックやこの犬種の特徴を旨く表現しようとしていたことを評

価した。このクラス全体としては各犬種の特徴を表現しようとしていたが、部分的にコートの長さ不足や厚みの不足があり少し残念であった。

スパニエル・プラッキング犬種 D組



優秀技術賞：植山和代（近畿ブロック）

｜ 短評 ｜ 審査員・Chang Hyun Lee

このクラスは出場者が少なく、ミニチュア・シュナウザーとアメリカン・コッカー・スパニエルの2頭でした。入賞された方はD組としてのテクニックは備えていました。作業の内容はモデル犬に適した道具の選択や使用方法が適切にできていました。課題としては時間の配分を工夫してもう少し完成度を上げられると更に良かったです。